

Message from Women's Eye

宮城県三陸沿岸部でのウィの活動も4年目を迎え、新たなフェーズへと踏み出しました。

ふり返ると、東日本大震災直後の緊急支援期に「女性のまなざしは、くらしの課題、社会的な弱者に敏感」なことに気づいたことがはじまりでした。

避難所から、知らない人ばかりの仮設住宅に入居する人々に向けて、まずは女性たちが集まりやすい場づくりをし、編み物などの「お楽しみ講座」を通じて女性たち一人ひとりのたくさんの声を聞きました。

2年目はお楽しみ講座を加速させながら、震災を契機に自分の町の復興の役に立ちたいと考える女性たちをサポートする動きへとシフトしていきました。

3年目、大事にしてきた「女性のまなざし」を団体名に冠し「ウィメンズアイ」（略称WE:ウィ）としてNPO法人化。社会を変えていく風を被災地から女性たちと共に起こしていく小さな決意を込めました。

同時に、課題解決、ネットワークづくり、人が出会う場を融合して、テーマ型コミュニティ育成事業を形にしてきました。具体的には、人と人がつながる機会を生み出し、小さな集いをたくさんつくることで、日常生活の中にセーフティネットをつくっていくことを意味します。

4年目の今年、集いの場では女性たちが地域社会につながり、必要な力をつけていく機会をつくることにフォーカスしていきます。

東日本大震災以降、「レジリエンス」という言葉がしばしばつかわれるようになりました。復元力、回復力、強靱性……さまざまな日本語に訳され、ぴったり当てはまる考えを探るのが難しいですが、ウィはそれは「しなやかさ」に非常に近いものであると考えています。本物のレジリエンスは日常の中に存在し、それ自体がインクルーシブ（みんなを包み込む力がある）で広がりのあるものでなければ、非日常には力を発揮しません。

レジリエンスは人がつくり出すもの。ウィは「女性のまなざしがいかにされた、しなやかな社会」を実現すべく、小さな変革を女性たちとともに創り出していきます。



特定非営利活動法人ウィメンズアイ 石本めぐみ

ウィメンズアイ 1年目の出来事

会員数 2014年5月末時点
正会員:42名
賛助会員:個人51名、法人1社
サポーター登録者:20人



ケネディ大使
南三陸町志津川の中瀬町仮設を訪ねて来ていただきました



安藤美姫さん
ご自身のサイト
RebornGardenの
取材をしていただきました

WEのビジョン

女性が自らをいかし元気に活躍できる

WEのミッション

1 女性たちが地域・社会につながるプラットフォームとなる

→ 要請に応じて、人々が垣根なく交流できる仲介役となり、女性が参加しやすい集まりづくり、場づくりに気を配る。

2 女性たちが必要な力をつける機会をつくる

→ 講座などを通じて学びの場をつくる。
考えを伝える、人前で話す、などの経験を重ねて女性たちが自信をつける助けとなる。

3 災害を経験した女性たちの声を内外に届ける

→ 講演会やイベント、ワークショップを通じて災害への備えを啓発する。
また、人権に配慮した支援のあり方を伝えていく。

WEの中期ビジョン

仮の暮らしが終わるとき、三陸沿岸被災地の女性たちが自らの場所できいきと活躍している。

WEの活動にふれて

WEのビジョンに共感し、活動とともに支えてくださったみなさんからの声をお届けします



山内恵美子さん

笑み工房 / 刺し子教室講師

ウィは私のような普通のおばさん一人の女性として扱ってくれます。震災後の私の地元で、若い女性はもちろん中高年女性にも働きかけ、町にいる私たちにできることがあるのではないかと考える時間をくれました。小さな町で何かを始めるには勇気がいります。ウィのみなさんは風を起してくれる、その風に乗って動いている私があります。



西城良子さん

元南三陸町職員 / めくもり工房庶務

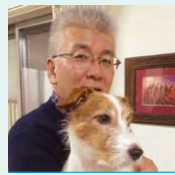
ウィとは「めくもり工房」が起業する時期に講師派遣をしてもらって以来のおつきあいです。その後、名古屋や福岡などで震災の体験をお話するイベントに呼んでいただき、自分の言葉で話す経験を積めました。若い方々はじめ真剣に聞いてくださる姿を見て、今までご支援くださったのはこういう方々かと実感がわきました。交流は大事ですね。



赤石千依子さん

NPO法人しんぐるまざあず・ふぉーらむ理事

ウィさんは、登米南三陸周辺のシングルマザーのグループをサポートしていますが、とてもいいにママたちの気持ちや要望を聞きながら、エンパワーを促しておられます。子どもたちのつながりも貴重です。主に東京でグループを運営しながら、東北のママたちの支援をしている私もとても勉強になっていますし、安心してお付き合いしています。



田島誠さん

震災タスクフォース チーフコーディネーター
国際協力NGOセンター (JANIC)

ウィには、人道援助の説明責任(被災者の人権を大切にする支援のスタンダード)研修を荒川ボランティアセンターと共同で実施した際にご協力頂きました。地元住民を対象としたこの研修は世界初で海外の関係者からも高い関心が寄せられています。今年度も、市民社会や住民も参加して地域防災計画を作って行く手法の研修を予定しています。



阿部忠義さん

南三陸町入谷公民館館長

公民館活動を通じてウィのことを知ってはいけれど、実際に「縁がわアート」で一緒に関わって、人となりやだんだんわかって来ました。本当に純粋にこの地域をよくしよう、女性のまなざしで社会をかえていこうという姿勢が見て取れます。これから、この活動が事業に進化して行く姿を期待しています。ぜひ、「ときめく事業」を起してください。



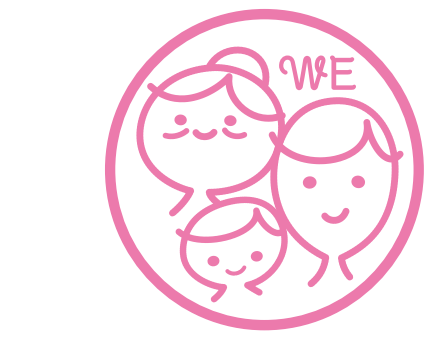
Women's Eye

特定非営利活動法人ウィメンズアイ

■東北本部：〒987-0511 宮城県登米市迫野佐沼字大綱 218-1 コンテナおおあみ
■東京支部：〒116-0013 東京都荒川区西日暮里 5-38-5 (社) RQ 災害教育センター内
代表電話：090-6065-1517 e-mail: info@womensseye.net
ホームページ http://womensseye.net/ ブログ http://womensseye.blogspot.jp/
Facebook ウィメンズアイで検索



特定非営利活動法人 ウィメンズアイ
年次活動報告書・決算報告書
2014年10月31日発行
デザイン・レイアウト 尾引美代
★写真 福井隆也



Women's Eye

2013年度 特定非営利活動法人 ウィメンズアイ 年次活動報告書・決算報告書

2013年度 活動ハイライト

コミュニティをつくる活動

震災から2年の2013年春。震災と津波で破壊された地域社会に追い打ちをかけるように震災後の「境遇の差」が住民の心に傷を生み出し、人々はバラバラのままという状況が生まれていました。ウィは町のかたちがいまだ流動的な津波被災地で、隣近所にとどまらない「テーマに基づいた」コミュニティこそが、人々をつなぎ、復興の端境期を乗り越える力となると考えました。同じ悩みを抱えた女性たち、共通の趣味に引きつけられた女性たちが顔を合わせ、楽しい会の回数を重ねるごとに仲間になっていく。様々な「小さな集まり」を、地元で活動の種を持つ方々とともに作ることを目指しました。町が本来の機能を取り戻すまでの空白期に、人々の心を支えるソフト面を充実させていくことが狙いです。仮設住宅の集会所は最低限にし、「誰でも来られる」地域のオープンスペース、コミュニティカフェなどを会場に選び、計86回開催しました。



pick up 登米・南三陸町 シングルマザー親子の会 「wawawa」

ひとりで悩んでいないで、みんなで話そう。先輩シングルマザーの声かけから、毎月1回シングルマザー親子が楽しく集まりまじめに話す会がはじまり、WEは事務局として運営に携わってきました。当事者だからわかりあえる課題、経験者が語る小さなヒント。安心な場で信頼が生まれ、広がった仲間の輪は2013年4月には「wawawa」という任意団体になりました。

pick up お楽しみ講座

参加した人みんなが楽しめて、学べる講座を「お楽しみ講座」と呼んでいます。地元で得意なことを持つ女性たちに先生をお願いしての刺しゅうや編み物の手芸講座は次々に参加者が増え、開催回数が増えていきました。継続的に通うウィのプロボノ講師たちによる「フライパンでつくるパン講座」「福祉仮設でのダンス体操」なども人気でした。



女性たちに力をつける活動

震災を契機に「復興の役に立ちたい」「仕事を創り出したい」という気持ちで地域活動やスモールビジネスに一步踏み出した女性たち。しかし、その継続にはさまざまな困難が伴います。ウィは「女性のまなざしで地元を元気に!」を合い言葉に、アイデアを誘発するワークショップ、さまざまな講座と研修、専門家や必要なリソースへのつながりづくり、販売機会の提供や紹介などを通して、女性たちが力をつけ、さらに活躍の場を広げられるよう応援してきました。



pick up おなごだづプロジェクト

アイデア創発型ワークショップで定評のある立教大学大学院の中西昭一先生を迎え、町の女性が主人公のCMづくりと、町の女性たち(おなごだづ)が教える「学校」の仮想のカリキュラムづくりを行いました。これを機に心の種が芽吹いたと話す女性も。希望者に対してはその後、ヒアリングと個別の事業相談会を年間を通じて行いました。



pick up 小さなビジネス スキルアップ講座 全6回

とめ女性支援センターを会場に、自分の手づくり品を販売している人や、イベントを主催する人、サービス業の人などが学んですぐに役に立つ技術を集めたウィのプロボノ講師による連続講座を開催。内容はキャッチコピー、写真、ポツ、お金、ウェブ、レイアウト等。

交流を生み出す活動

南三陸町内、宮城県内のみならず、県外でのイベント等を通じ、温かい交流を生み出し、人々のつながりをつくる活動を行ってきました。

pick up 南三陸じかん

ウィの東京連絡事務所のあるエリア谷^{やなか}中で、春に最盛期を迎えた「ワカメ」をテーマに南三陸町でのウィの活動と、町の魅力を伝えるイベントを開催。「おなごだづプロジェクト」に参加した女性たちの町内での活躍を紹介するパネル展示や、ワカメがわかる写真展のほか、物産販売も。期間中、刺しゅうの出張講座を通して南三陸町の講師の先生と東京のみなさんが交流したり、南三陸町めぐり工房のお母さんとお話を開催したりしました。



pick up 光のカケラプロジェクト

南三陸町の女性たちがエコ素材のカラフルな残布から丸いパーツ「フキコ」を作り、子どもたちが色と環境について学ぶ素材にするという活動を柱に展開するプロジェクト。愛知でのイベントでは、南三陸町の女性たちがステージで震災について語り、物産を販売。そのかわりで子ども達がカードづくりを行いました。町内では、南三陸町の色で染めた「フキコ」飾りを制作展示しました。
*当プロジェクトは、P&G(株)、ユニー(株)、(株)エコマコの協賛によります。



災害に備える活動

災害は自分の町で起こるかも……。震災直後の被災地で災害ボランティアを経験したからこそ、伝えたいことがあります。

pick up 講演、セミナー、啓発活動

北九州GENKISとともに、市職員の方も交えて災害への備えを考えるセミナーを開催。南三陸町などの女性をゲストに「お話し」も行っています。備えは平時にしかできません。普段から携行する防災グッズ「ライフポーチ」を紹介する活動も始めています。



その他の取り組み

東京の荒川ボランティアセンターとともに、支援の国際基準を地域の方々と考えるフォーラム「一人ひとりを大切にする避難所のあり方～」を企画・開催するなど、東京支部での地域活動も行っています。

2013年度 決算報告(概算)

2013年6月4日～2014年5月31日

収入	¥19,055,572
助成金	¥10,610,000
東日本大震災現地NPO応援基金【特定助成】JT NPO応援プロジェクト	¥4,980,000
宮城県「みやぎ地域復興支援助成金」	¥3,000,000
赤い羽根共同募金「災害ボランティア・NPO活動サポート基金」	¥1,100,000
トヨタ財団東日本大震災特定課題助成2013	¥1,030,000
市民ネットワーク千葉県元気ファンド	¥500,000
寄付・会費	¥4,561,869
寄付金	¥4,310,869
会費	¥251,000
事業収益	¥3,874,024
物品販売事業 *1	¥3,085,345
防災啓蒙事業 *2	¥505,859
行事参加会費	¥282,820
その他	¥9,679

*1 東北の手作り品販売の総売上額であり、商品売上益ではありません
*2 女性視点の防災WS、講演、視察コーディネート等

●ご寄付をお寄せくださった方々(一部)
P&G(株)様、考えるポーの会(オーストラリア/パース)様、北九州市小倉南区保育士会会長山崎啓子様および会員ご一同様

支出	¥19,055,572
プロジェクト費	¥12,194,931
テーマ型コミュニティ育成	¥4,391,917
スモールビジネス販売支援	¥3,676,680
女性グループ事業相談	¥2,928,330
縁がわアートin南三陸	¥552,777
活動展など広報	¥422,911
防災啓蒙	¥222,316
管理費	¥1,206,324
その他経費	¥1,117,022
人件費	¥89,302
法人税、住民税及び事業税	¥54,000
次期繰越金 *3	¥5,600,317

*3 今期から次期にまたがる事業への助成金が含まれます
★決算報告書はホームページ上で公開しています

ひとめでわかるウィのフィナンシャル

